

## 教えるのではなく自然に覚える

それにしても、そんな小さい子どもに漢字を教えることは、早過ぎて害があるのではないかという声も聞きます。たしかに、いやがる子どもに無理に詰め込むのでしたら、害もありましょうし、なによりもまず、子どもが受けつけますまい。けれども、幼児は本来、与えられたすべての環境を栄養として育つのです。それは、自然から与えられた生命カ——「内なる力」の働きです。この育つ力に呼びかけ、そしてその育つ力が応じるのです。しかも、最も適当な時期にそうするので、早過ぎるということは決してありません。

あとで、人間の脳の働きについて述べますが、とにかく、環境からの刺激を受け、それに反応して育つ働きは、生後の三年間で一応完成されてしまいます。しかも、視覚的なものを吸収する能力は、一生のうちで三歳ごろがほとんど最高なのです。そして、もし刺激が多すぎたり、吸収するに耐えない場合には、吸収を中止する——受けつけることをやめますから、おとなが心配するような負担過重ということは起こりません。空腹ならどんどん食べ、満腹すれば自然に飲食を

やめる、それと同じです。その意味でも、無理やりに教え込む教育は、満腹したものの口を強引にあけて詰め込むようなものですから、これは大変な弊害をとまなうにちがいません。ことに漢字教育と言えば、すぐ詰め込み教育を連想するほど、今までの多くは詰め込み式でした。しかし、そうではなくて、幼児が喜んで覚えてしまう方法を知っていただこうと思います。